

〈研究主題〉 児童生徒の学びをつなぐ授業づくり
～児童生徒の「思い」や「願い」を踏まえて（2年次／2年計画）～

本研究では、児童生徒一人一人の「思い」や「願い」を丁寧に把握し、各学部で設定した「学びをつなぐポイント」を授業づくりに取り入れ、児童生徒が学んだことを次の学習や日常生活へと自らつなげていく力を育む、学びをつなぐ授業づくりに取り組んでいます。今回は、中学部の全校授業研究会の様子について紹介します。

中学部1年生活単元学習「チャレンジ中1②～エンジョイ夏休み～」
元気で楽しい夏休みにするための作戦タイム

授業について

暮らしへの意識の高まりを踏まえ、夏休み中の生活をテーマに家庭での過ごし方を考え、実践しようとする気持ちや実践力を高めたいと考えた。自分の生活をコントロールする力や家庭生活に主体的に参加する力、学びを生活や社会へ応用する力を育むことは、将来の自立と社会生活に向けた基盤になると考え、本単元を設定した。

本時の「学びをつなぐポイント」について

【縦のつながり】

- ・見通しをもって活動に臨めるように、①前時の復習 ②学んだことと自分の生活との比較 ③夏休みの目標設定という流れを繰り返す。

【横のつながり】

- ・自分の生活場面との結び付きを意識し、個々の課題に気付けるように家庭に対して、各テーマに合わせた日頃の様子を聞き取るアンケートを実施する。（「手伝い」「食事」「健康」「運動」）



授業研究会から

授業研究会では、授業者が設定した協議題に沿ってワークショップを行い、「次につながるキーワード」をまとめました。※以下各グループからの抜粋

【協議題】

自分の課題を意識するための振り返りの方法や目的設定の手立て（個々の実態に応じた教材・教具、グルーピング、教師の働き掛け、共有方法）はどうあればよいか

○学びをつなぐために有効だった手立て

- ・生活を見据えた単元・テーマの設定と、分かりやすい言葉での働き掛け
- ・日常生活の中で無理なく取り組める運動種の選定と、体験場面の設定
- ・振り返りや実践、家庭との共有において活用するための冊子の作成

○「次につながるキーワード」

- ・「個々のステップアップ」
- ・「生徒目線での整理整頓」
- ・「“体験的な活動”と“思考する時間”のバランス」
- ・「できた・できなかったで終わらない評価を！」
- ・「学習内容に応じたグルーピング」
- ・「情報選択を精査する」



○単元について

単元計画については、家庭にアンケートを書いていたいたり、養護教諭や栄養教諭を講師として招いたりすることで、自分の考えだけではなく、様々な視点から夏休みの生活を捉えられるよう工夫されていた。新しい知識や様々な人の考えに触れることは、生徒が自身の経験と結び付けながら内容理解を深め、見方や考え方を広げることができるとともに、将来も含めた実際の生活の中で学んだことを活用する力や主体的に学ぶ意欲へとつながる。

○本時の授業について

- ・写真付きの運動カードは分かりやすく、体験の時間も十分だったことで、生徒たちの表情がとてもよかった。情報が多く、捉えにくい部分があったかもしれないため、今後は精選について検討してほしい。
- ・夏休みに運動に取り組むのであれば、「なぜ運動するのか」「自分がどうなりたいか」をイメージし、課題意識をもって取り組むことが大事である。
- ・一人一人に対しての様々な状況を考え、準備した成果が本時の授業であった。全員が目標発表を行う必要性については、活動量、目標、まとめの時間等を考慮し、生徒一人一人が何を学ぶのか、何ができるようになるかという視点で、授業の組み立てを考えていくとよい。
- ・目標を考える場面で、T2が「何のために運動しているのか、思い出した？」と言葉を掛けた。T1が意図している内容を教師間で共通理解しながら授業が進められていた。
- ・問いとまとめについて、「自分は何のために運動するのか」という問いは、前時までの授業で十分に組み込んだことが生徒の様子から分かった。イラストや「スッキリ」「スリム」などの言葉の響きなどの効果もあり、楽しみながら自分の運動の目的を押さえていた。「自分は何のために運動をするのか」という問いの内容は、保健体育科の1段階の思考・判断・表現に相当する。各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養うことにつながる。教科の視点で生活単元学習が行われていた。

授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと生徒の変容）

○学ぶ内容の理解

→授業後の振り返り場面では、「手伝い」「健康」「食事」「運動」の各テーマで学習したキーワードを使って答える生徒もおり、学んだ内容が知識として押さえられている様子が伺えた。



○課題意識をもって学習に取り組む姿勢の育み

→学んだ内容を自分事と捉え、夏休み中に課題を頑張り、更なるレベルアップを意識した生徒がいた。夏休み明けの授業では、家庭からの振り返りコメントを読む場面を設けた。コメントの内容から夏休み中の生活での反省点を見付け、冬休みの生活で頑張りたいことを考える生徒が複数いた。



○家庭との連携の充実（今後に向けて）

→夏休みと同様、冬季も「エンジョイ冬休み」として単元を計画する。家庭で取り組む課題が中心となることから、決めた内容を学校で実際に試し、できるかどうかを確かめる時間を設定したい。保護者との面談から、手伝いや運動などの目標が本人の実態と合っていない場合や、協力を得られやすくするための工夫が必要な場合があることも分かった。学校で学んだ内容を自分で実践できるよう、家庭との連携の仕方について今後も検討を重ねたい。